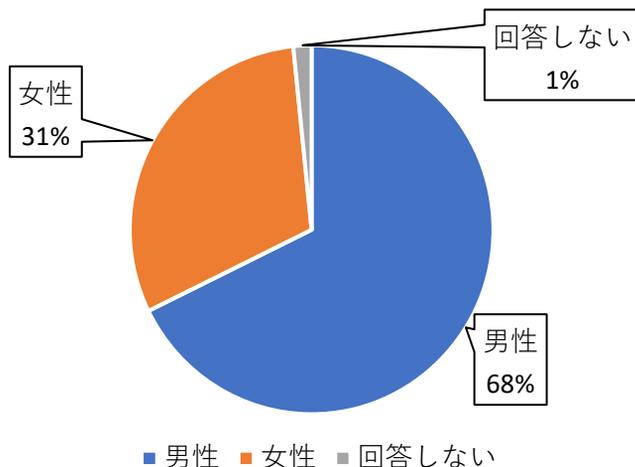


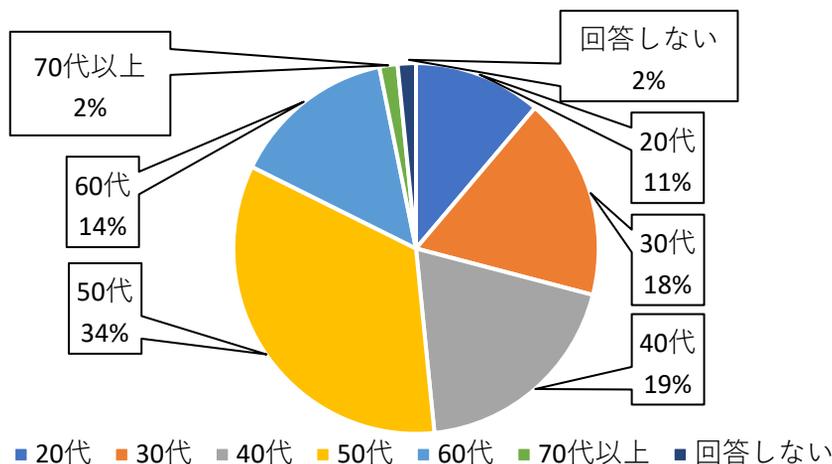
日本放射線影響学会2023年度キャリアパス・男女共同参画委員会アンケート集計結果

実施期間：2023年11月7日～12月8日（Googleフォームを利用し、Web経由で実施）
有効回答数：62件

Q1：性別

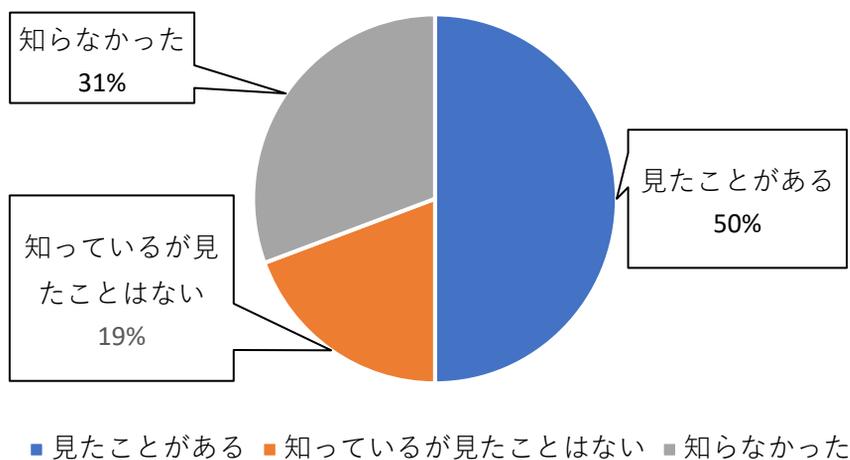


Q2：年齢

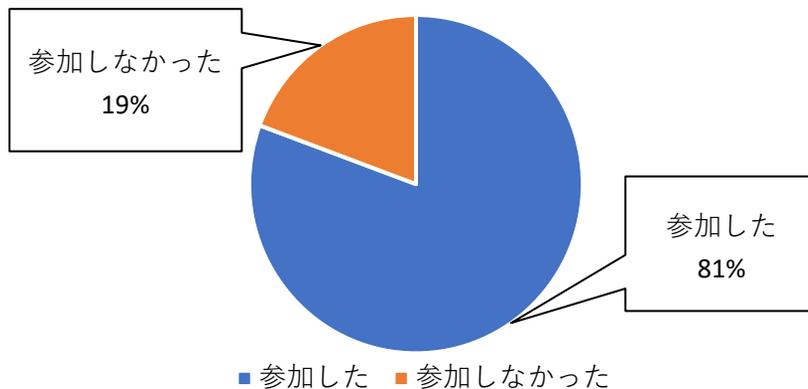


Q3：キャリアパス・男女共同参画委員会Webページ

(https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html) をご覧になったことはありますか。



Q4：第10回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」には参加されましたか？



Q5：Q4においてセミナーに参加された方はご感想をご入力ください。（自由入力）

- なりたい自分になれる社会、と言う言葉に感動した
- 問題点が明確でない
- 講師の方から興味深い話を聞きました
- 李先生の体験談に深く頷きました
- 色々な意見を聞けてとても良かった
- 現状の問題点について認識する良い機会だった。まだライブイベントを経験していないので、パネリストの方々のご意見が参考になった。
- 具体的にどうしたら良いのか、という点は難しい。
- これまでの取り組みを知ることができて良かった。
- 特に、為近先生、李先生のお話が印象に残った。
- 多視点の感想を聞けて、勉強になりました。
- これまでの活動などとても参考になった。
- 女性は子どもの世話に時間を多く割くので男性より大変
- 良かった
- 初めて日本放射線影響学会に参加したが、男女共同参画に力を入れている学会は初めてだと感じたので、印象的だった。このようなセミナーが必要でなくなるくらい共同参画が当たり前になればいいと感じる。
- 放射線影響学会での10年間の男女共同参画に関する取り組みや、会員内での認識の変化を知ることができ、今後学会の活動に関わっていく上で勉強になった。
- 講演が良かった。
- これまでの学会での取り組み、これからの計画が詳しく説明され、わかりやすかった。
- 実際にライブイベントでの対応を経験した人たちの話が聞けて良かった
- 10年ほどの間の委員会の努力が垣間見れ、また様々なリアル意見も聞けた
- 途中から参加しました。幅広い年齢層の先生方から体験談を聞くことができ、励みになりました。
- 「事情は人それぞれ」というのは目からウロコでした。
- パネル討論でこの委員会活動を発展させてきた歴代の委員長が登壇され、いかに心を込めて苦労しながら立ち上げてこられたのかが感じられ、感慨深かった。ただ、時間が足りず、歴代の委員長の先生方個人のお考えやご経験をじっくり拝聴できる時間が削られてしまっていたのが残念だった。
- 歴代の委員長の発言からこの委員会の変遷がわかるとともに特別講師の先生やパネリストから決して画一的でない、きめ細やかな対応が男女共同参画には求められることが実感できた。
- 影響学会員が抱える問題を聞けるのは、非常に有り難いことだと思って、拝聴しました。自身の勤務先とは異なる環境で、どのような問題が生じているのかを知ることができて、とても良かったです。ありがとうございます。
- 主に女性サイドからの貴重な体験談はラボマネージメントに役立たい。
- 10年を振り返る企画で、充実した内容でよかったですと思います。
- 特別講演の為近先生がおっしゃっていたように、成熟した社会が目指すところは、女性が羽ばたける社会を超えた、皆がやりたいことを実現できる社会である、ということに強く共感した。
- 為近先生の特別講演は、共感できることが多くあり、参考になりました。
- これまでの取り組みの苦労と成果が良く分かり、参加してよかったです。
- ランチョンだったので参加しました。そうでなければ参加しなかったと思います。こういう問題意識も重要と思います。ただ、昨今の女性優遇の教授公募等の措置は明らかに本末転倒な様子も見受けられます。実際、明らかにレベルの低そうな女性教授も含まれている様で、所属学生たちの研究成果が上がっていないなど、弊害が大きい様に見えます。やはり、研究能力、指導力が優先されるべきでしょう。
- アンケートの数を増やすようにした方が良い。
- ・私も李先生と同じ内容で事務部門と戦いましたが、勝ち取れませんでした。組合にも相談しましたがダメでした。労基に行く発想はありませんでしたので、李先生の行動力に感服いたしました。先例を作っていただき、戦い方も教えていただいたので、次に（後輩たちに）何かあった場合は、量研に先例があると示し、労基の単語も出して戦いたいと思います。
- キャリアパスに関連するあれやこれやは、ちょっとした事例を知っているかどうかで難易度がかわるけれど、ネットで多くを情報収集できるものではないと思っています。なので、セミナーの継続開催を有難く思っており、委員会の皆さまのご準備が大変かとは思いますが今後も継続いただくと嬉しいです。
- ・ハイブリッド開催にいただいたので、拝聴することができました。ありがとうございました。

Q6：次回以降のキャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーの内容についてのご提案・ご要望などがありましたらご入力ください。（自由入力）

この10数年間女性研究者研究費獲得の変化。学会から女性研究者への研究費支援。

学会として次に取り組む課題について議論してほしい。

ライフワークバランスとキャリア形成（特に留学について、年齢や、準備期間における研究と準備のエフォート比など）に関して具体例を知りたい

子育ての経験（どの乗り越えてきたか？）、男性、育休の経験（問題点も含めて）

経験者でも世代、個人でだいぶ対応は違うので今後も経験談を聞く機会があればと思います。

時間的にタイトであることは承知しているが、可能であれば双方向性の企画も加えて欲しい

前委員長の細谷先生が在任中に目指したことの1つとしておっしゃっておられたように、年代のダーバシティも大切にするというミッションを引き継いで、多様な背景を大切に「全員参加型」のセミナーとして今後も発展させていただきたい。

Old boyサイドの男性、あるいは管理職の立場から見た時代的変遷、取り組みや障害など多面的な視野での企画

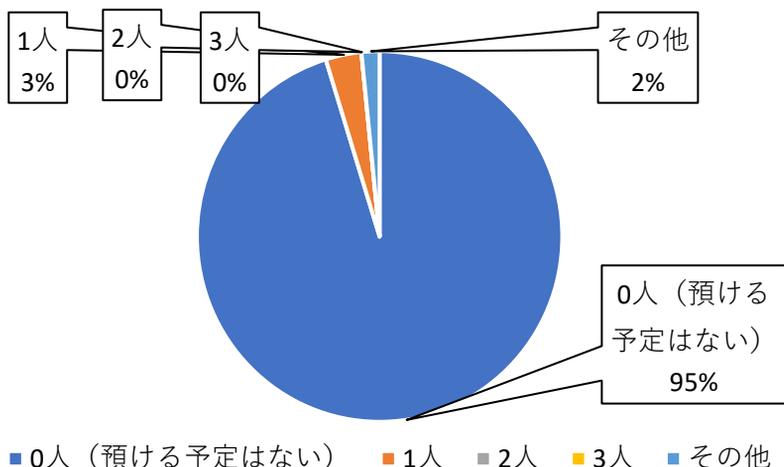
次回大会が産業医大なので、産業医の視点からの男女共同参画の課題についてお話を伺えればと思います。

若い研究者が途中で研究を辞めざるを得ない状況にならないように、何をどのようにサポートすべきか、なんでも気軽に相談できる窓口があればいいなと思います。

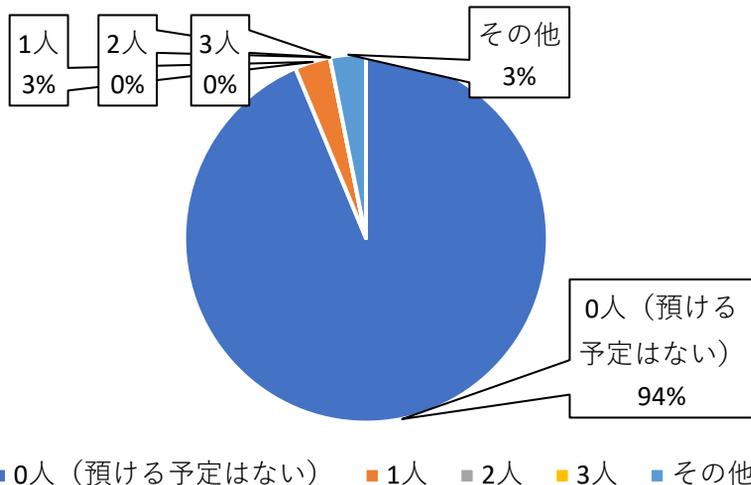
社会のニーズに沿って、実施されるのが良いと思います。

細谷先生が頑張ってくれた企画なので、直接お話ししていただければ！？中村麻子氏や笹谷めぐみ氏など女性学会員を含めた討論があっても良いかも。育休を取得した男性も。

Q7：第67回大会（2024年9月25日～28日に北九州市にて開催予定）に参加される方で、開催地での保育サービスの利用を必要とされる見込みの方は、該当するお子様（生後3ヶ月以上の未就学児）の人数をお教えてください。（現地開催されると仮定してお答えください）



Q8：第68回大会（2025年10月に広島市にて開催予定）に参加される方で、開催地での保育サービスの利用を必要とされる方は、該当するお子様（生後3ヶ月以上の未就学児）の人数をお教えてください。（現地開催されると仮定してお答えください）



Q9：本学会では、男女共同参画に関わる大会参加支援の1つとして、年次大会参加中に開催地における託児サービス利用した学会員に対して託児費用を補助する「託児費用援助制度」を設置しています。他に、多様な事情やニーズを抱える会員が学会活動により参加しやすくなるためのアイデアやご提案があれば、ご入力ください。（自由入力）

会場の託児所が便利か費用の援助が便利なのかは人によるのではないかと、本日の話を聞いて感じました。フレキシブルなのは後者の方ではないでしょうか。

女性研究者を増やすには、社会全体で認識を改める事が必要。丁度、311東日本大震災後に小中学校教育に組み入れた正しい放射線理解教育のような授業により、理由無き男女間の職業差別観を無くしてゆくのが有効かとおもう。30年くらいは必要でしょう。

帯同者に対する支援（会場、懇談会への無料入室など）

第66回大会のようなオンライン配信を次大会以降も進められるといいと思います。

今回は一会場だけだったが、オンライン配信をもう少し充実させられると良いと思う

オンラインでも参加できれば嬉しいです

コロナが明け、前の期に作られた「託児費用援助制度」がついに活用されるのは素晴らしいことです。「会場内託児」の設置については、大会（長）側にも経験値が必要ですので、ハードルは高いかもしれませんが、今回の大会を1つのお手本として、今後も大会側には、多様なニーズのある参加者を受け入れていただけると良いと思います。家族を帯同する場合の同伴者（非託児年齢の子ども＝小中高の児童生徒および配偶者）に関する大会費免除、現地とWEB（中継のみ）を併用したHybrid開催

Q10：キャリアパス・男女共同参画活動に関するご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。（自由入力）

女性の理系進学者を増やすためには、中高教育から変えないとだめでしょう

学会として本委員会の活動は大変こころ強い存在です。ありがとうございます。放射線影響分野の中に女性の研究を支えていただく研究費の枠もありますと、研究費獲得できない時期、少額な支援でも大事な意味があります。どうぞ宜しくお願いします。

簡単な課題ではないと思うが、是非継続するべきだと思う。

家族の旅費のサポートがあっても良いと感じた。

継続が重要だと思います。

研究職の募集が、ほとんど短期間の任期制しかなく、僅かに募集される定年制は女性限定になっており、男性が研究者として安定して活動する道が閉ざされてきていることについて、活動において触れてほしい

大会における企画の継続、保育費補助

今後も精力的な活動を期待しています

10回目のセミナーを迎えたこと、おめでとうございます。今後も、バトンがしっかり引き継がれていくことを願っています。

もっともっと色々な人の意見を聞けると嬉しいかなと思います。

母数を増やすことが重要であることは分かるが、数値目標を偏重する昨今の流れに違和感を覚える。母数を増やしたいのであれば、女性が理系選択をする土壌の醸成に注力しつつ、研究職（男女問わず）の給与を含む待遇の大幅な向上など、職業としての魅力を向上させ「研究職」になろうとする人口を増やすべきと考える。

保健物理学会が行っていたように、委員会の活動をポスター発表してもよいかと思いました。

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画委員会